

研究 成 果 報 告 書

研究テーマ (和文)	震災復興のまちづくりにおける農家民宿の発展過程とその役割 ー福島県二本松市東和地区に着目してー		
研究テーマ (英文)	Toward a Long-Term Reconstruction Scenario: The Development and Community Role of Farmer's Guest Houses in Towa District, Nihonmatsu, Fukushima		
研究期間	2021 年 ～ 2025 年 (出産育児による研究中断期間含む)		研究機関名 名古屋大学大学院環境学研究科 立命館大学政策科学部
研究代表者	氏名	(漢字)	山出 美弥
		(カタカナ)	ヤマデ ミヤ
		(英文)	MIYA YAMADE
	所属機関・職名		国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院・助教(採択時) 立命館大学政策科学部・准教授(現在)
共同研究者 (計 0 名) * 2名をこえる場合は、【別紙追加用紙】(P3)に3人目以降を追記してください。	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
<p>概要 (600 字～800 字程度にまとめてください。)</p> <p>本研究は、福島県二本松市東和地区における農家民宿の発展過程とその役割を明らかにし、放射能汚染地域におけるスティグマ軽減と自立的復興に資するコミュニティ・デザインの手法を検討するものである。</p> <p>当該研究で対象とした東和地区では、東日本大震災以前の 2009 年頃から、農業と食を軸とした地域づくりが行われており、農家民宿は教育旅行の受け入れや地域交流を通じて発展してきた経緯があることがステークホルダーへのヒアリング調査などから明らかとなった。2011 年 3 月の東日本大震災以降は、土壌汚染に伴う風評被害が続く中でも、農業体験や震災教育を通して外部との交流を自律的に維持し、農家民宿の経営を軸に関係人口の増加とスティグマの緩和に寄与してきた。</p> <p>本研究では主要な農家民宿 6 件へのヒアリング調査を実施し、地域内の信頼関係構築や協議会による合意形成手法が持続的な運営を支えている実態を明らかにした。また、長期滞在型施設や市民農園としての展開など、震災復興を超えた将来的展望も示された。一方で、農業と農家民宿の両立には家事負担が大きいこと、家庭内理解が大きく関与しており、経営者が高齢化していくことから、持続可能な体制の確保が課題となっていることが明らかとなった。</p> <p>今後は福島県内における他の地域との比較分析を通して、スティグマの程度とコミュニティ再生の手法の相違について検討を進める予定である。また、震災を経験した他の地域(熊本、能登)などにも、福島での農家民宿を軸とした地域コミュニティの再生手法が有益である可能性を模索していきたいと考えている。</p>			

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）						
雑誌	論文課題	震災復興のまちづくりにおける農家民宿の発展過程とその役割 ー福島県二本松市東和地区に着目してー				
	著者名	山出 美弥	雑誌名	政策科学会		
	ページ	～	発行年	2 0 2 4	巻号	32(1)
雑誌	論文課題					
	著者名		雑誌名			
	ページ	～	発行年		巻号	
雑誌	論文課題					
	著者名		雑誌名			
	ページ	～	発行年		巻号	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	

英文抄録（100 語～200 語程度にまとめてください。）						
<p>The purpose of this study is to clarify some aspects of the development process and maintenance methods of farmer's guest houses in Towa district of Nihonmatsu City in Fukushima, in order to develop a long-term reconstruction scenario. In addition, we explored the potential for farmer's guest houses to have a significant impact on reducing stigma. As a result, it was found that in Towa district, a concept and approach to community development based on food had been in place since before the Great East Japan Earthquake (around 2009), and there was a high awareness of community formation and maintenance based on agriculture. Moreover, it was shown that maintaining repeat customers through agricultural experiences and increasing the number of related populations are clues to reducing the negative image of the area caused by soil contamination. As future prospects, there were opinions such as "To make it a facility to enjoy working as a long-term stay guesthouse like in Germany" and "To attract people from Kanto area as Kleingarten(Residential Citizen's Farm)". On the other hand, the burden of cooking is particularly heavy burden, and the understanding of those responsible for household chores have a great impact on the operation of the farmer's guest houses.</p>						